

2025年9月23日

amu定例～文字起こし

00:00:00

佐野和哉: 出てくるかなという気がする。で、うんと、ま、例えば、うんとなんだろう、あの、ま、福岡の人だったら友達とプさんに行ったのがめっちゃ楽しかったですみたいな話をして、じゃ、プさんどうやってったんですか？何、なんか何しに行ったんですか？みたいなこととか、なんか何が特に楽しかったんですか？みたいなことが、ま、聞いてくと思うんだけど、ま、そういうことで掘り下げていって、で、ま、聞きたいことはこの人は旅行

安部和音: うん。

佐野和哉: に何を求めているのかみたいなことなので、ま、うんえと、特に聞きたいこと。うんと旅行、うんと想定顧客は旅行に何を求めているのかみたいな部分かな。

安部和音: うん。ふん。

佐野和哉: っていうところをうまく掘り下げていきたいって感じ。

安部和音: うん。ふん。ふん。ふ。

佐野和哉: ま、人にもよると思うんだけど、何人か聞けばある程度共通する傾向みたいなものは見えてくるんじゃないかという気がする。

安部和音: ふふ。

佐野和哉: とで掘り下げて旅行先としての別符についてうんとま、これここまで聞けばなんかこの人たちがどうこの人たちま多分少なくとも聞く人がうんと聞く相手がどういう基準で行き先を決めてるかとかっていうのがうんと分かってくると思うのでなんかその中それ言うとか別府今僕たちはその別に

00:01:20

安部和音: あ。

佐野和哉: ホテルを作ろうとしてるんですけどうんとその中で言うと別プって入ってきますかねとか、まあなんか入全然入ってこなさそうですねみたい

安部和音: うん。

佐野和哉: な可能性もあるかもしれないし、なんかこういう旅行だったら入ってくるかもしれないですよみたいなのが多分見えてきたりするかな

安部和音: うん。うん。うん。

佐野和哉: という風にな気がする。

安部和音: うん。うん。

佐野和哉: 旅行先として入ってくるかどうかでうんとうん。

安部和音: うん。

佐野和哉: ま、入ってくるとしたらどういう場合なのかどうい場合か。うんとで、うんとどんな旅行ができたらいいかうんととかうーん、なんだろう。ま、あとは思考を広げる意味でうーん、ベップにうんと、ま、逆にあんまりベップじゃないなみたいな感じだったらどういことがあったら別にか選択肢

Louju: 0

佐野和哉: に入ってくるかとかどういことがあれば別が選択肢に入ってくるかとかでうんと、ま、例えば僕らがこいものを提供できたりすると思うんですけど、それってどうですか？みたいなことを具体的に聞いてもいいかもしれないし、うんとなんかこいことがあったら良さそう

安部和音: うん。

佐野和哉: ですか？みたいなのが話の中で見えてきたらそい話をしてもいいかもしれないしとか。

00:02:53

安部和音: うん。ふん。ふん。

佐野和哉: えっと、こちらが適用できるものについての感触とかでうんと聞き逃したこと、え、話し足りなかったことなどでこれについてとかって感じで、ま、大体1時間弱ぐらいでまともんじゃないかなっていう気がする。うん。うん。うん。あ、そうね。うん。それもあり。うんと、無人テルってどうですか？無人テルって結構なんか無人ホテルだから選ぶって人あんまいねえんじゃないっていう気もするんだけど。

安部和音: ふふんふんふん。うん。ふん。ふん。この下の方のところまで行ったら結構、ま、無人ホテル実はやるんですけどとかちよつとあの、ま、言えそい雰囲気だったら誘導にならない程度で言っていくみたいな感じです。うん。うん。うん。これはゲリラインタビューでめちやめちやあれすね。裸掴んだ。

高橋英信: ううん。

佐野和哉: そうだよな。

安部和音: あ、しまった。ソフィ。あ、これ目。あれすね。あ、これすいません。結果、結果を貼ってなかったです。

00:04:06

安部和音: ちよつと後でやりました。

佐野和哉: うん。

安部和音: あの、やっぱり友人ホテルと無人ホテルどっちがいいって聞いたら、それは友人ホテル答えるというか、おきつい部分でやっぱ答えるようになっていのがあって、ま、

佐野和哉: まあまあそうだよな。うん。うん。

安部和音: ただあの男性だったりとか、ま、あの、価格次第とか使い方次第とか距離とかあ

の、どっちでもいいよみたいになっていうのもありました

佐野和哉: うん。うん。うん。うん。

安部和音: ね。

佐野和哉: なんかもうちちょっと具体的だといいかもね。無人ホテルなんだけども、なんかこういうものがあつたらなんかどう思うかみたいなことをかちょっとあんまパツと思いつかないけど。

安部和音: うん。ああ、なるほどなるほど。うん。うん。うん。今回も実はあの宿泊業のアンケートってのもちょっと隠してて、あのこの藤波さんっていう方なんですけど、あのどこまでこうど、あのどこで

佐野和哉: うん。ふんふん。

安部和音: 開示するかみたいなのは結構悩んでました。

佐野和哉: うん。ふん。ふん。ん。

00:05:00

佐野和哉: この人をどうしてるって？うん。

安部和音: あ、ここにはもう単純になんか別府の宿泊体験についてお伺いしたくて、あの、ちょっと今探人人探してますぐらいの感じでいい。

佐野和哉: はい。はい。はい。はい。はい。はい。

安部和音: でも僕がホテルをやるっての全く何も知らない状況に一応してみてはいますね。

佐野和哉: はい。はい。はい。そうね。うーん。それはなんかなんか意図があつた。

安部和音: はい。そうですね。やっぱり誘導になるかなとかホテルやる人の気持ちを考えてやっぱり喋っていくみたいな感じがあるかなと思ったのでええ、そうですね。

佐野和哉: ああ。うん。どうだろうね。なんか人によるかもしれないけど、あんまなんかなんだらう。あの、ホテルをやるんですけど、正直に答えてくださいって言ったら別になんかホテルをね、回答内容によってあの、インセンティブが変わりますとかだっ

安部和音: はい。

佐野和哉: たらめっちゃいいこと言うかもしれないけど、別にそんななんかなあの、変わるなんかなホテルをやるのが知ってるからと言ってそんなに変わることはないような気は

00:05:54

Louju: ちゃった。

安部和音: あ、面もします。はい。

佐野和哉: する。

安部和音: あ、分かりました。じゃあ、あんまり気にせずにちょっとやっています。

佐野和哉: うん。そうね。むしろなんか途中でなんか実はホテルやるんですけどとか言われる方がなんかなんだらう。

安部和音: うん。

佐野和哉: あんまりちゃんと話したくないですみたいな感じになっちゃいそうな気がする。

安部和音: あ、なるほど。はい。あ、分かりました。うん。うん。

佐野和哉: とかかな。ま、こういう感じで聞ければ、ま、想定顧客の可能性高めるとか、ま、特にこのこういう人はどういうこういう人たちのグループは旅行に何を求めているのかみたいなこととかが聞けるんじゃないかなと思うが、ま、ちょっと聞き方難しいのはうんと例えば3人グループでよくに行きますみたい

安部和音: うん。

佐野和哉: な人を3人同時に聞いた方がいいのか、1人に聞いた方がいいのかみたいなのが難しくてうんといや、私は全然そういうの決めて

安部和音: うん。うん。うん。

佐野和哉: ないんでどこでもいいんですね。割とみたいな人とかもいると思うから、なんかそういう人に聞いて聞けることが限られてくるかもみたいなのはちょっとあるかも。

安部和音: うん。

00:06:46

安部和音: うん。うん。そうですね。なんかゲリラを選んだ理由はちょっとそれもあるって同時に

佐野和哉: うん。うん。うん。うん。

安部和音: 3人聞けるかなっていうの思ったんですけどめっちゃ断られたんですよ。そうなんですよ。はい。そうですね。そう。ちょっとどうやって貼ればいいんだこれ? ああ、だめか。

佐野和哉: うん。うん。まあ、断るよね。断ると思う。普通。うん。

高橋英信: PDF 化はできたけど、その後 PDF は対応してないか。

安部和音: ん? あ、いや、厳しいと思う。

高橋英信: 今ちょっと待って。貼れる形式にして送る。本当。

安部和音: CSV が入らないのと PDF にするには横長すぎる。ちょ、投げよっか。うん。ふん。あ、ま、あの、あれすね、藤並さん、ま、こういう感じの人をお願いして、僕も知り合いじゃないです。友達の友達って感じでちょっと探してもらったので全く関係のない人でそうしては割とこういう人別つぷいましたね。

佐野和哉: うん。うん。うん。

00:08:19

佐野和哉: へえ。

安部和音: あの女子旅でやっぱりこういう人いて多分20後半から30前半多分2529とか多分それぐらいとは思う。

佐野和哉: ええ、ええ。

Louju: 何歳ぐらいの服これ？256とああ。

佐野和哉: うん。うん。

Louju: うん。

安部和音: ちょっともうちょい若い人欲しかったんだけど、この人がとりあえず捕まってって感じです。

佐野和哉: ま、聞きたいことが多分結構うんと改造度上げるためのヒントになるかなと思うんだけど、例えば価格とかうんとどんな旅行ができたらいいかなんかうんとうーんいい美味しいものを食べたいのかなのかとかなんか映える写真撮りたいなのかまああんまり20代後半になってくるとあんまないのかもしれないけど。

安部和音: うん。うん。うん。美味しい。うん。うん。うん。なんかでも僕らの感覚でもあのインスタ映みたいなのわざわざアンケートで言うことないかなと思ったんすけど。

佐野和哉: うん。ま、この辺別にわざわざ聞かなくてもいいと思う。なんかあの普通に話なんかオープクエスチョンでなんか言えると思うから本人がなんかうん。

安部和音: そうです。

佐野和哉: それで出てくる、まあ、なんか全然デモしない時に例えば美味しいものとか食べたいとかっていうのとかってあんまそこに入ってくないですかとかなんかインスタに写真あげたいとかってあったりしますみたいなとかを聞くとかはあるかもしんないけどとかなをある程度仮説もこっちで

00:09:43

安部和音: うん。うん。うん。うん。うん。うん。ま、全然出てこなかったらそこまで行っていいんですね。

佐野和哉: 仮説持って感じかな。程度。

安部和音: うん。うん。うん。うん。

佐野和哉: これ。これ。

安部和音: そうですよ。ええ。すみません。あの、調査結果も、あの、リンク貼ります。はい。

佐野和哉: うん。はい。あざす。全然大丈夫

安部和音: はい。

佐野和哉: かな? はい、どうぞ。うん。いや、なんかね、多分イスラエルから旅行に来てる人結構いると思う。

安部和音: い、なんか普通に話しかけたらイスラエルのソルジャーって言ってる人いましたね。

Louju: うん。

安部和音: はい。

佐野和哉: あの、俺のところにもいたから、北海道のクソ端っこまで来てる人とかなんか普通に海外、海外出れるだけ出れる、出るみたいなのをやってるんじゃないかな。

高橋英信: うん。

安部和音: え、本当ですか? はい。な、何なん?なん? ああ。

佐野和哉: 3ヶ月とかそのビザギリギリの期間で出るみたいなのとかをやってるんじゃないか

な。うん。

00:10:41

安部和音: ああ、なるほど。なんかゲストハウスに泊まってましたね、その人は。バックパッカーみたいな人でしたね。あとはその統計に対して結構外国人の方すごい多かったですね。

高橋英信: うん。

安部和音: あの、結局結構少ないなっていうのが見た感じのあの、所管だったんですけどはい。

佐野和哉: はい。はい。はい。ま、街にいる人が多かったってことね。

安部和音: 町はもう3割ぐらい、ま、2.5割ぐらいは外国人でなんか統計と全然違う感じがしました。

佐野和哉: うん。うん。うん。うん。うん。

安部和音: ただそのとあ、何ですか？季節はあるかもしれないですね。

佐野和哉: ま、なんかシーズンとかもあるのかもしんないよね。季節とかもあんのかしんないよね。

Louju: ちょ

佐野和哉: とかなんかそのもしかしたらその旅行の行動としてその日本人があんまりホテルからホテルとか宿から出ないとかなのかなんかそこは感覚的に

安部和音: はい。はい。うん。うん。うん。うん。それも思いました。

佐野和哉: ありそうだよ。なんかでかいホテルとかに泊まってそうじゃん。

00:11:43

安部和音: そう。

佐野和哉: おじいちゃんおばあちゃんとかはでホテルから出なそうじゃん。

安部和音: うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。いや、本当にそれは思いましたね。

佐野和哉: うん。

安部和音: だから宿泊なんか別府の街がそんなに盛り上がってないように見えても実はホテルの中もわちゃわちゃしててみたいなそんな感じなのかなとも思いました

佐野和哉: うん。うん。

安部和音: たやっぱりあとはすいませんで結構最初にリサーチこしたんですけどえっと1番左上とかですかこの計算したってところで外国人の割合ってえっと5% 4.9%しか

佐野和哉: うん。うん。うん。うん。うん。はい。はい。

安部和音: ないんです。

Louju: よし。

佐野和哉: うん。うん。

安部和音: ま、ま、これも統計上の数字なんですけど、やっぱり、あの、それに対して福岡県民っていうのは25% ぐらいそう来てて、で、
佐野和哉: はい。はい。うん。

00:12:31

佐野和哉: うん。うん。うん。
安部和音: 他その他九州からも15% 来てる。
佐野和哉: うん。うん。
安部和音: ま、意外と置いた県民も多いというところで、やっぱりここ狙っていくとか、あの、く、車で来て、あの、っていうのでちょうどいいのが別府なのかなっていう。
佐野和哉: これあの発着地着地だよな。
安部和音: あ、ごめんなさい。そうです。あ、そうです。ハッチ別なんぞ。
佐野和哉: これ例えばさなんだ海外から来てる人とかでも全福岡止まっててその後来ましたとかだったらこれにカウントされないってことだよな
安部和音: はい。ま、経由ですか？はい。あ、そっすね。
佐野和哉: 。
安部和音: 多分そうなると思うすね。
佐野和哉: うん。うん。
安部和音: あれヒが集めてた。あの居住地でなんか秀が見てたデータであった。
高橋英信: うん。うん。うん。えっと、大分県の出してる情報になるんですけど、自分がちょっとフィグマにあの貼れないんで尋ねに一旦送ります。
安部和音: 晴れない。
高橋英信: うん。

00:13:31

高橋英信: 俺は編集部下の状態になってる。
佐野和哉: なんか俺もちらっとこのデータ見た気がするけど、なんか発着地だったらあんま参考にならんかもなと思ったよう記憶あるな。
安部和音: そうすね。あ、編集かで火であれフィグマに招待してる。
高橋英信: てん。
安部和音: Gmail 開いて、ま、あとはあのこれの左の方ですけど、なんか四国と中国は10%、10% 15% ぐらい増えて年費比ですな。
佐野和哉: うん。
安部和音: これはなんでだろうって思ってるんですけど、ちょっとまだ答え出てないですね。
佐野和哉: うん。なんかさ、あのなんだっけ？船出てるじゃん。ベップ。別ッって船出てなかった？四国と繋がってる。あれ？あれ乗ってる人増えてたりすんのかな？うん。うん。なんか

うん。

安部和音: 出て、出てます。と繋がってます。

高橋英信: 強する。あ、そうですね。

安部和音: あ、多分そういうことかなと思いますね。やっぱり四国中国からは絶対フェリーで来ると思います。

高橋英信: 自分が1回それ乗ったことあるんですけど、もう1番最後の夜の瓶だったっていうのがどう作用してるか分からないですけど、めちゃくちゃいっぱい人がいていう感じでしたね。

佐野和哉: うーん。

00:14:55

佐野和哉: なんかもう超推測だけど、今年だったら瀬戸国際芸術祭とかやってるからそれから流れてきてるとかあるかもしれないよね。

安部和音: うん。うん。そうですね。あの、あ、この下のリクリエのデータですけど、これは瀬戸内ち国際芸術祭に座れた結果、ものすごい実績が下がってたって、あの、言うてましたね。

佐野和哉: うん。うん。うん。うん。あ、

安部和音: あとは、えっと、台湾が2.5倍ぐらいになってて、前年費で、ま、これも調べようかなって感じですね。

佐野和哉: うん。なんか中国、台湾とかわかんないけど普通に日本全体でそんぐらい増えてそうだよな。うん。

安部和音: あとはい。

Louju: はい。

安部和音: あ、そうですね。ま、なんか締め付けが弱くなったのかなっていうのがまず1番あ、あ、でも台湾は関係ないですもんね。ちょっと分からない。火で晴れそう。

高橋英信: いや、参加できない。どう頑張っても参加できない。

安部和音: エグマ再起動してみたらま、いいや。

高橋英信: うん。

安部和音: あとは自分たちのゲリラインタビューの中で外国人はやっぱあの東京行ってきたとか京都行ってきたとか前後で絶対どっか行ってきてでそうあの全体のバジェットとしては大体100万円ぐらいの人が多くなっている感じで別アップにはあんまりお金落としてくれないイメージですね。

00:16:12

佐野和哉: うん。はい。はい。うん。ふん。

安部和音: 10万円とかやってたんで他で50万ぐらい京都で50万ぐらい使ってたとかそう

というのが多分ある。あのあ、あれすね。飛行機か。飛行機が大きいのか。

佐野和哉: うん。ふん。うん。これなんかリンクをいい感じに貼る方法なかったっけ？フィグマあ、これね。

安部和音: はい。あ、えっとなんかハイパーリンクを右上のテキストって書いてる右にハイパーリンクつけれるやつがはい。

佐野和哉: うん。これはなんか普通に法日外国人同校のデータでうんと2020国別の比較あるかな？国別の前年

安部和音: うん。ふ。

佐野和哉: 費うーん。

安部和音: ふん。ふん。ふん。ああ。でも台湾そんなに伸びてないすね。16.9%とか。

佐野和哉: ま、台湾はそこまでだね。うんと2023から4で台湾で1.5倍で中国で2.5倍みたいな感じかな。

00:17:53

安部和音: うん。うん。うん。うん。うん。

佐野和哉: だからまあそんぐらい増えてはいるけど、ま、台湾はなんかあんのかもね。

安部和音: そううっすね。

佐野和哉: 別台湾のなんかでバズってるのとかがあんのかもしんないね。

安部和音: 普通に。うん。そうですね。まあ、単純になんかツアー会社が頑張るだけで割と増えるみたいな、あの、あんま事業者がガツガツしてないイメージあるんで、あの、なんか結構台湾で頑張ってる人いるのかなとかちょっと思ったり仮説として北海道とかで多分もうツアー会社いっぱいあるすよね。うん。うん。

佐野和哉: うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。あるね。大分空港と台湾を結ぶチャーター便みたいなのが去年からできてんだね。

安部和音: あ、それかな？話題性とかではありそうですね。

佐野和哉: なんかあるかもね。うん。

安部和音: あの韓国人っぽい人はほとんどか家族でしたね。あの、ちょい、ちょっと恒例50代のおが家族で来てて、いやいや若い息子みたいなのが歩いてる。

00:18:53

佐野和哉: はい。はい。はい。

安部和音: すごい見ました。

Louju: た。

佐野和哉: なんか、あの、サフカイ道の星のリゾートとか言っても結構韓国人ツアー客みたいなのがすごい多くて、なんかそういうのできてる人たちかもね。

安部和音: うん。うん。うん。うん。そうかもしんないですね。なんか若い人の遊びじゃない

のかもしれないですね。

佐野和哉: うん。

安部和音: 別府だった。

佐野和哉: うん。うん。なんか下の日インバウンド旅行会社のリサーチみたいなも俺も見た記憶んだけどこれなんかそのなんだ自分たちのツアーに参加した人で見てるからなんかそれ

安部和音: あ、はい。そうなんすか。そうなんですよ。はい。はい。そうっすね。下にあの書いてあるんですけど、欧米系のインバウンド強そうだなって。あの、この会社が純粋にそうっぽかったの。

佐野和哉: がだいぶ大米に偏るよなみたいな感じで見た記憶あるな。うん。うん。うん。うん。うん。

安部和音: で、えっと、ツアだけじゃなくて、その上にやってるやつがこのなんかこう初動教室とか、まあ、アメリカのこうなんて言うんですかね、ステレオタイプなジャパン、ジャパニーズみたいなイメージあるなと思ったんで結構偏ってそうですね。ああ、なるほど。

00:19:49

佐野和哉: うん。うん。うん。うん。はい。はい。うん。うん。なんか個人旅行でこういうのに参加するのってもう大体欧米系ほぼ欧米系の人たちなので。そう。あんまりま、なんかそういうものとしては参考になるかしんないけどそれ以上の参考にはあまならんかもって感じかな。

安部和音: うん。うん。うん。これですね。あ、あの、前後で訪れてるは結構大事なデータになるなって思いました。それで言うと結構広島が多いなと思いました。あ、そうですね。

佐野和哉: うん。うん。うん。うん。まあ、外人広島大好きだもんね。京都広島行って帰るみたいな人とかすごい多い感じがするな。

安部和音: ああ、それはもうあれですか?原爆ですか?やっぱり。うん。うん。

佐野和哉: ま、原爆もあると思うけどなんかあのわかんない。これどんぐらい俺あの結構推測でものを言うけどあのなんか新幹線乗り放題みたいなやつがあんのよ。外国人がも外国人だけが買える。

安部和音: へえ。へえ。

00:20:51

佐野和哉: パスがあってで、結構それ買ってる人多いから新幹線沿いのところにはすごく行くんだよね。

安部和音: ああ。うん。うん。うん。うん。うん。

佐野和哉: だから東京行って、京都行って、広島行ってみたいな人が結構多い気がする。

安部和音: うん。

Louju: うん。

安部和音: あ、言っていました。オーストリア人がにゲレラインインタビューしたんですけど、新幹線で福岡まで行って、福岡からソニックでって言っていました。あ、えっとなんか知熱と、えっと温泉とちちょうどあれですね。さっきあの方がトリア人ですね。地獄巡り熱自然温泉って書いてありますね。

佐野和哉: うん。うん。うん。うん。うん。うん。その人なんで別府、わざわざベップ来たとか言ってた。お、はい。はい。はい。うん。うん。うん。ああ。

安部和音: で、旅館止まっています。

佐野和哉: はいはいはい。温泉好きみたいな人はいるよね。

安部和音: 地熱ってのはちょっと意外でしたね。

00:21:43

佐野和哉: なんかそういう仕事してんのかな? うん。

安部和音: 有名なんかヨーロッパでは有名なのかもしれないですね。なんかクリーンエネルギーとかなんか今そういうのでそうですね。

佐野和哉: にしてもまあいっぱいあるじゃん。温泉つっても。うん。

安部和音: ま、あの、割、確か地熱の発電量はかなり多いみたいなのがこれかなっていうのもちょっとあります。あとは頭良さそうでしたね。その人は若くて頭良さそうな人でなんか研究者ですとか言ってさ、仕事とかも聞けばよかったですね。うん。ふ。

佐野和哉: ええ。ふん。ふん。タン。うん。うん。うん。なんかそういう仕事してるみたいなのが来てたりするもあるかもしれないからね。

安部和音: そうですね。うん。うん。アネクホテルはちょっと見て欲しいかもしれないですね。

佐野和哉: 生ネクへえ。

安部和音: 結構ロビーすごいこだわってる感じのはい。

佐野和哉: ああ、なんかすごいね。アセッカーにもあんだ。

安部和音: らしいですね。

佐野和哉: これ会社どこだ? なんかすげえ。

安部和音: 天ね会社らしいです。

00:23:05

佐野和哉: あ、そうなんだ。

安部和音: で、もういや、そうなんすよ。

佐野和哉: すげえ見たことあるフォーマットだな。スーパーホテルとかと一緒にじゃない? これ。

安部和音: 僕もそう敵なのかなと思ったんですけど。なんか霞ヶ関係かなとか思ったりとかしたんですけど、なんかそうでもない。

佐野和哉: うん。

Louju: ま、アネクは料金体で言うと結構ミドルミドルローくらいま、あの日付によって違うけど10月のうん、4512の土日

安部和音: 今いくらになってる? うん。

佐野和哉: うん。

Louju: で4名だとま、7万くらいかな。

安部和音: 1人当たりどれくらいかな? 178000くらいか。で、須止まりだよな。

Louju: 1万51万8000うん。うん。

安部和音: うん。ふんふん。そうっすね。

佐野和哉: ま、でもいい感じ、いい感じのホテルだよな。リーズ、リーズナブルというか、まあ、いい感じの割には安いって感じなんだろうな、きっとね。

安部和音: あ、そうだと思います。で、正直ウェブサイトを訪れた時に割としょぼいモデルになって思っちゃうからなんかあのそ、そこじゃないくらい若い人ってちゃんと Booking . com の写真とかバーって見

00:24:32

佐野和哉: うん。うん。

安部和音: てたりとかするのかなって思いました。なんか伝わんない。このウェブサイトだと結構あのかっこよさ伝わんないなって思うけど入ったらもっとちょっかっこいいですね。

佐野和哉: うん。うん。Booking. com の写真の方がいい感じなの? うーん。

安部和音: ブッキングド確か良かったですね。アマネホテル。えっとなんかすね。

佐野和哉: ま、旅行行く時、Booking. . com で予約する人いんのかな? へえ。

安部和音: えっと、聞いたところで言うと、Booking. . com のレビューは絶対見るって若い人言ってましたね。

Louju: うん。

安部和音: あの、ア田で見て安いホテルを Booking. com と Google map でレビュー見てア田で予約するって言ってました。

佐野和哉: うん。うん。

Louju: ね、そこまですんだ。

佐野和哉: へえ。

安部和音: 顎田が安いっていうのはなんか浸透してるみたいで。

Louju: うん。

佐野和哉: ま、そうね。

安部和音: うん。

佐野和哉: 確かにレビューはまあ Google とかブッキングが溜まってるのかもね。

安部和音: かもしれないですね。

佐野和哉: キング。

00:25:46

佐野和哉: うん。

安部和音: ま、ブッキングも写真がいいというか多いですね。

佐野和哉: ま、写真うん。多い、多いね。

安部和音: うん。うん。

佐野和哉: いいのかはま、分かんないな。

安部和音: うん。うん。いや、やっぱりでもあの建築の方がカッコいいですね。中の行った感じの方がすごいカッコよく見えます。

佐野和哉: うーん。確かにこの相当外観カッコいいな。

安部和音: めちゃくちゃカッコいいす。

佐野和哉: うん。

安部和音: で、隣に別みたいなのがあって、多分アネインンってやつだと思うんですけど。

佐野和哉: これでも新築リノベリベっぽいやね。

安部和音: えっと、リノめっぽいやけどな。リノめっぽいや。そうですね。

佐野和哉: リノベっぽいやにしては外装カッコいいやね。元々こういうカッコよ。こういう建物だったのかな。

安部和音: で、あ、もうちょっと調べないとわかんないですけど、別定に関しては、あの、アパートいか、あ、この、あれですね、写真ちょっとフィグマの方に今あった写真でいくと、この右のアネクベツって書いてるやつはこれはマンションか収益も、もう買ってリノベーションしてますね。

00:27:00

佐野和哉: へえ、本当だ。

Louju: うん。

佐野和哉: マンションだね。

安部和音: これもこれはカッコよかったすね。

佐野和哉: うーん。

安部和音: これもカッコよかったす。

佐野和哉: なるほどな。

安部和音: これはこう、ま、アネカホテルがもう明確にベンチマークになりそうな感じはしました。

佐野和哉: うん。うん。うん。

Louju: やっぱ甘ねくなんか屋上プールあるらしいな。うん。なんかあんまりなんか低所特者層がセレブリティの真似ごとするにはちょうどいいホテルな。

安部和音: そうなんだ。そうする。

佐野和哉: そうね。ま、あんまり金かかんないのかな？どうなんだろう。

安部和音: なんか結局オプションつけていったらやっぱ高くなってくるみたいなのもやつかなと。

Louju: うん。

佐野和哉: あ、違う違う違う。その屋上にプールとか作るとかがさ、投資投資コスパいいんじゃない？わかんないけど。

安部和音: はい。ああ。

Louju: うん。

安部和音: ああ。ラ、ランコス以外は安いと思いますね。

佐野和哉: うん。

Louju: うん。確かにプールあるだけで、え、このホテルプールあるぞってなりなるもんな。

佐野和哉: うん。

安部和音: うん。

00:28:13

Louju: 行かないけど結局行かない。

佐野和哉: なんか立派っぽく見えるよね。

Louju: うん。そうっすよね。

安部和音: うん。ふん。

Louju: うん。

安部和音: いつかこれぐらいのホテルもやりたいな。でもなんか儲かったらそっすね。

佐野和哉: リロブしよう。

安部和音: ここでも本当に建築はめっちゃ就一ですね。あと庭とあとホテル的にやってるところもちょっとあるんですよ。アーティスト。

佐野和哉: なんか飾ってるね。

安部和音: そうですね。あ、あの竹林君さ、別府行った時にさ、なんか照らしてたじゃん。

Louju: うん。うん。うん。

安部和音: なんかどっかの屋上どっかのあれがこ多分ここなんだよね。

Louju: あ、ああ。はいはいはいはいはい。え、な、どこだっけね？ね、アネから出てんのか。

安部和音: 天2出てるみたいな。

Louju: あま、なるほどね。

佐野和哉: うん。

安部和音: なんか1km 先ぐらいから光を飛ばしてあの夜空にそれがビルからビルに当たってるっていう多分アートなんですよ。

佐野和哉: へえ。えーん。

Louju: うん。

佐野和哉: あれじゃね？うーん。

00:29:25

佐野和哉: これまだやってんのかな? うんとね。フィグマに貼るか。

安部和音: あ

佐野和哉: お、割れてる。割れてないな。これあれだわ。パノラマティックス。

Louju: あ、これだ。これだ。

安部和音: あ、これだ。あ、これ、これ甘猫じゃないっすかね。甘猫じゃないな。

Louju: うん。

安部和音: おー。あ、これです。これです。ええ、これ実験だったのか、あれ。あ、いや、1年ぐらいやってるな、じゃあ。

高橋英信: Ja

安部和音: あ、違う。

佐野和哉: 毎晩店倒って書いてあるから今もやってんのかな? これはパノラマティックスってっていうあのライマのライゾマを一緒にやっ

安部和音: え、そうですね。なんかすごいことやってるなって。ああ、こういうアーティストなんです。うん。あ、そうなんすね。うーん。

佐野和哉: てきた斎藤さんっていう人がやってるシリーズ。

Louju: うん。

安部和音: ふんふん。いや、かっこいいな。

佐野和哉: なんかあの投稿機1個でできるからコスパがいいって言ってたわ。

00:30:54

安部和音: あ、これいいんですか? なんか金かかりそうだなと思ったんです。ま、確かにそうか。

佐野和哉: ま、持ってくものはそんな多くないからね、多分。

安部和音: そうですね。

佐野和哉: で、情節できるから。

安部和音: うん。場所借りなくていいですしね。そんなになるほど。

佐野和哉: うん。

安部和音: すごいですね。こうそこまで引き出しあるんですね。

佐野和哉: クっすね。

安部和音: いや、佐野さんですね。

佐野和哉: あ、あ、俺が、あ、なんか見たことあった。

安部和音: パパッと出る。

佐野和哉: 確かになんかあれなんか近く通ってそうだね。あの空中からの地図あったわ。

安部和音: そうすね。これ天の近くに当たってますね、多分。ああ。

Louju: あ。

佐野和哉: ちょっと下の方に作品設置イメージみたいになったわ。

Louju: おお。

安部和音: おお。あ、なんかライズマっぽい。この画像。うーん。あ、これってでも当たってる先に何かを表現してるとかじゃないですね。この光がもう作品なんすね。
佐野和哉: あ、そう。

00:32:16

安部和音: うん。ふ。なるほど。ああ、ところでやってるんだ。うん。
佐野和哉: いろんなところでやってるわ。札幌で前やってた。札幌臭い芸術祭でやってた。
安部和音: うん。あ、そうなんですね。そういえばあの
佐野和哉: うん。だんだん投稿機の角度下がってこれなんか昨日と角度下がってねみたいな話してめっちゃ調整してたわ。
安部和音: VIP の芸術業軸落ちました。面接で。
佐野和哉: あ、そうなんだ。
安部和音: それいや、それあんたの会社でやりなさいよって言われたことさ、そのなんかやっぱあ、なんかあ、アートって自分が言うものにこう関わって
佐野和哉: 面接まで行ったんだ。うん。うん。うん。すんなよ。なんか適当に言えよ。
安部和音: くっっていうのが見えてないみたいな話をしてデザインを選んだなんかデザインを選んできたんでちょっと何も分からないんですけどみたいなそううつすね。正直すぎて、ま、あの、どっかで飲み屋で会えたらいいなと思ってますね。別軸でちょっと仲良くしたい。でもなんかべ
佐野和哉: うん。正直すぎるだろ。
Louju: あ
安部和音: 裏があつとみたいな感じなんですよ。
佐野和哉: へえ。
安部和音: なんか平屋のボロボロの平屋を誰かが借りたらしくていう話聞いてたらアートギャラリーにいつの間にかなあっててうちのホテルの前を絶対通らない

00:33:45

Louju: 。
佐野和哉: うん。はい。はい。
安部和音: といけないんですよ。
佐野和哉: うん。うん。
安部和音: なんでまあなんか一緒になんかやりましょうみたいな話をちょっと挨拶してなりましたね。
佐野和哉: うん。うん。なんかロビーみたいなとこあんだっけ？無人ホテルだけど。
安部和音: 無人ホテル。ま、エントランスぐらいですかね。ロビーまでは行かないです。
佐野和哉: うん。

安部和音: そこはあのカッコよくしたいし、あの建築上はそんなにカッコよくなってないんですよ。

Louju: あ

安部和音: 多分あのひ体を使った壁にはするとは言ってたんですけどそれぐらいでなのでなんかももっとた付けてカッコよくできそうな感じはします。

佐野和哉: うん。うん。ま、部屋ごと使うとかもあるかもしれないしね。

安部和音: うん。うん。うん。そうですね。

佐野和哉: はい。

安部和音: はい。

佐野和哉: ま、ちょっとあの、リサーチまだもうちょっとやりたい。やろうとは思うんだけど、あの、ま、ざっと見た感じそんなになんか、ま、今、あの、調べて出してもらってるようなデータ以上になんか

00:34:45

安部和音: はい。

佐野和哉: すごいパキッとしたデータが出てくる感じはあんましないなという気がするので、なんかある程度当たり付けてインタビューしていった方がいいかなと

安部和音: うん。

佐野和哉: いう気はしていますね。

安部和音: ああ、なるほど。なるほど。

佐野和哉: で、インタビューはあの、ま、もしあれだったら俺インタビューするとかでもいいんだけど、次の時とかうん。

安部和音: あ、はい。そうですね。

佐野和哉: 1回やってみる。うん。うん。うん。うん。うん。オッケー。うん。

Louju: そう。

安部和音: ま、ちょっとどうしようかなって感じ。あの、お願いするか迷ってたんですけど、なんか自分で自分でやるようなところでもないなと思ってて、あの、1戦1台の授業で何言ってんだらうって感じなので、ま、おね、そうですね。あ、ただ、あ、ちょ、ちょっと考えます。すいません。あの、はい。

佐野和哉: まあ、なんか俺、あの、俺が先にや、1回やって、それを見つつ鍋君がやるでもいいし、まあ1回自分がやってみるで

安部和音: はい。そうですね。

佐野和哉: もいいし。

安部和音: はい。はい。明後日なので、あの、ちょっとすぐ、すぐ考えて、あの、すぐ言います。

00:35:46

佐野和哉: うん。オッケーですか？なんかあと今日話しといた方がいいことってあったっけ

安部和音: 竹林君とかなんかうんうん。

Louju: 俺は前回のミーティングからまだ何も動けてないのでちょっとやばいね。

安部和音: 忙しいよね、最近。あ、お疲れ様です。何やる?うん。うん。

Louju: いや、でもあのめっちゃめっちゃ重いプロジェクトの納品がちょうど今日終わったからちょっと明日から色々動いてます。とりあえずロゴロゴ1回あの前回作ったやつからバージョン3作ってみてあとそれやりながら全体等のなんかリファレンス3個集めたりしようかな。

安部和音: はい。はい。

Louju: うん。

安部和音: あとの連がちょっとそろそろ行きたいな。なんかの連を作りたい。

Louju: はい。はい。はい。はい。

安部和音: ログと合わし。

Louju: の連ま、じゃあその事例から行くか。

高橋英信: うん。

Louju: って言ってもなんかシンプルなの連でロゴ入るだけとかじゃないでしょ。

高橋英信: うん。

Louju: かずさんがやりたいの。

安部和音: あの、やんない方がいいと思うからさ、やっぱそのわったら結構変わるかなと思うかな。

Louju: うん。うん。うん。うん。うん。うん。

00:36:57

Louju: うん。うん。

安部和音: あの、光は当てる予定上からなので、それを使うも、あの、使わないでもいいんだけど、あの、多分のは結構あの、あれになるか

Louju: うん。うん。

安部和音: な、旗になるかなと。

Louju: うん。ふん。ふん。上から出る光はのがこうあって、もうここからこの設置天井との設置面からこう下に向かってみたいな。

安部和音: えと

高橋英信: えっと、なんて言うんだろう？上にこう斜めに屋根がさ、河の分の屋根があるじゃん。

Louju: お、そののちょっと離れたところからの照射するみたいなイメージ。うん。はい。はい。

高橋英信: 出てるんだけど、あそこの、ま、その裏、下側から照らすっていう感じ。

Louju: はい。うん。あ、うん。ふんふんふん。ああ、なるほど。ここ。あ、違えた。

高橋英信: ちょっとこう15°ぐらい角度ついてるけど、ま、ほぼ真上から照らすスポットライト

なんかちょっとパースの写真後で送るわ。

安部和音: あ、いや、今下に出した。

高橋英信: あるよ。

Louju: ん。

安部和音: の連はないよね、ここに。だからの連がここにつかきのきの裏から出る。

Louju: うん。

00:38:13

Louju: うん。うん。

高橋英信: くて、その、ま、カラーと白いのがこう屋根っていうかで、そのキノキ、その木の下にスポットライトが刺さ

安部和音: このここにこうこう裏に仕込まれてる感じに多分なる。そうそう。

佐野和哉: うん。

Louju: はい。はい。はい。はい。なるほど。なるほどね。こういう感じか。うん。

安部和音: だからこれをでこれ夜多分ここしかライトほとんど当たってないからめっちゃ大事だと思う。

Louju: うん。ふん。うん。なるほど。めっちゃ大事じゃない。

高橋英信: あ、て、手前にアプローのライトはあるけど食材のところにそうそうとあ、壁とかまゆとそうサインサインがつくとあとまそう

佐野和哉: え

Louju: そ、食材を照らすよ。食材じゃ、この壁の部分か。

安部和音: あとここに壁、壁の看板が多分つくので何でもいいな。

Louju: はいはいはいはいはい。サインサインはもう全ゴって感じよね。ここはうん。後ろは自動扉どうやって

高橋英信: うんうん。

安部和音: シンボルロゴも作ってもいいかもしれんし。ロゴでもいいかもしれんし。あ、これ自動ドア。

Louju: 3枚なって2枚。うん。

00:39:26

安部和音: これ2枚だよ。3だっけ?あ、3なんだ。あ、じゃあ横にスライドして

高橋英信: 3のはず3そうこまではわかんないな。

安部和音: 1枚になる感じのやつ。右か左。そうっすね。リッチに開くかもしれないです。

佐野和哉: うーん。

Louju: なるほど。右、右に開く。左に開く。うん。

佐野和哉: 3枚の自動って見たことねえな。

Louju: うん。

安部和音: で、自動ドアも結構あの反動体不足でなんか大変とか言ってました。

高橋英信: うん。

佐野和哉: へえ。熊本で作ってるやろ。一生懸命。

安部和音: あ、それですね。すぐそこで作ってるはずなんすけど。

Louju: めっちゃむずいな。

安部和音: ま、リファレンスかな。やっぱリファレンスでただリファレンスって言っても日本のリファレンスしかないから結構難しいとこだなと思う。

Louju: うん。うん。うん。うん。うん。うん。

安部和音: なんかこうヨーロッパからなんか近い概念持ってきてアフヘベンするみたいなのとかけどね。

Louju: うん。ああ、なんだろうね。

高橋英信: うん。

00:40:32

Louju: ちょっと探してみますわ。

安部和音: うん。

佐野和哉: なんか仕切りっぽいやつとかだったら海外とかにもあるよね。

安部和音: そうですね。なんかその面白い字集めるとか敵スタイルとか調べてもいいかもしれないけど。

Louju: うん。うん。うん。うん。オッケー。そうね。

佐野和哉: なんか札幌の居酒屋の乗れはクソ長いのが流行ってるわ。

安部和音: あ、そうな。あ、ありますね。

高橋英信: うん。

Louju: うん。

高橋英信: うん。うん。

安部和音: はい。

佐野和哉: 床のちょっと上ぐらいまであるみたいなやつばかり。

安部和音: はい。はい。はい。はい。

高橋英信: ああ。

安部和音: はい。

Louju: それはあれなんすか? 帰る時お客さんこうやって手で避けながら入るみたいな感じなんです。うん。なるほど。うーん。コンタクト。ああ、あの渋谷にあった。

佐野和哉: あ、そうそう。

安部和音: 別府のタコナ子っていうあのタコ瀬屋さんもの連をくぐって入る中が見えないみたいな感じですね。あ、それコンタクトやってる人たちがやってるみたいな。あのクラブイベントのそう。

00:41:32

Louju: ああ。ええ、そうなんだ。

安部和音: あれ系の界隈の人らしい。

佐野和哉: へえ、今札幌の連れったわ。

Louju: うん。

安部和音: ありがとうございます。ああ、ええ、これ、

高橋英信: おお。

Louju: なるほど。

安部和音: え、ど、どんな絵なんですか、これって。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。

佐野和哉: なんかね、あの昭和系、昭和レトロ系なんかね、ここの居酒屋のセンスがなんだろう。

高橋英信: ああ。

佐野和哉: もうなんかめっちゃダサイんだけど、もうそれを貫いてるからもうそれで頑張ってくださいみたいな感じの

安部和音: お、すげえ。すげえ。ええ、なんか建築に対してソフトウェアが頑張りすぎて、あの、逆にコンセプトになってますね。いいです。

佐野和哉: そうね。

Louju: デ水バス

佐野和哉: しょっちゅう変わってる。このの連れ変わるからなんかそれを楽しんでるんでしょって感じ。

安部和音: そうなんだ。はい。はい。お客さん集まりそうすね。ぶっちゃけこれ。

佐野和哉: ま、結構集まるね。

高橋英信: うん。

安部和音: ふん。

佐野和哉: この系列のお店はなんかすごいわからよくわからないセンスの連がかかっているからすぐ分かる。

00:42:57

Louju: かさんがいてのけよね。

安部和音: ちょっとああ、これはま、ま、こう、こうなんか遊び方よね。まずまず来れよねっていう感じのリファレンス。あ野さん、あの、ピンタレスとも招待一緒ですかね?あ、分かりました。

Louju: かさんが言ってるのは。うん。うん。うん。

佐野和哉: うん。うん。うん。

Louju: うん。

佐野和哉: メールアドレス。あ、メールアドレスはうんと違うかも。ちょっと送るわ。

安部和音: あれ? 竹林君どっちだっけ? これえっとア、アムが2つあんだ俺。

Louju: ん、えっと、えっとね、あのサブボードが入ってる方、レイアウト系とかロゴとか大文字全部大文字のやつ。

佐野和哉: あ

安部和音: あ、ありがとうございます。

高橋英信: ね。あ

安部和音: だから大文字かな？あ、これか。で、あ、これ竹林橋林君が作ってるわ。ごめん。招待してくれない？このボードいいな。あ、火で火でもいいよ。ああ。あ、そっか。それでいいのか。

Louju: うん。これリンクコピーしてもう食ったらいいのかな？あ、そっか。

安部和音: なんか招待はしないといけない。

00:44:26

高橋英信: お願いします。

Louju: あ、これだね。ほい。佐野さん送りました。

佐野和哉: あざす。いいね。シックだね。

Louju: 火でもメアを送ってもらえたら待って。

高橋英信: うん。そうだ。

安部和音: そうですね。シックスを作りたいなと思ってます、今。

高橋英信: 本当に送った。

Louju: このSだしよ。これ千属のじゃないの？お、窓持ってんのか、この目。

高橋英信: そうそう。

安部和音: いや、AC.JPじゃなくて、Gmail.comで、あの、学石版を使って、え、結構今日までにヒデが結構悩んで、あ

高橋英信: あ、そう。作り替えた。

Louju: はい。

高橋英信: よし。そうなんですよね。ちょっとまとめられなくてじゃ、佐のさんにお伺いできたらなっていうところなんですけど。

安部和音: あ。

佐野和哉: あ、そうなの？うん。

高橋英信: はい。ま、その自分もあのフィールドワーク行ってで、えっと、あの統計情報、大分県から出てるやつだったっていうのを色々見てたんですけど、これを

佐野和哉: うん。はい。はい。はい。うん。うん。

高橋英信: 使って俺は何をしたらしいんだろうみたいなあの感覚になっちゃって、その、ま、はい、表見てこうびっくりしちゃってるみたいな状況だったん

00:46:04

佐野和哉: うん。うん。うん。はい。はい。はい。はい。

高橋英信: ですよ。

佐野和哉: はい。はい。

高橋英信: なんではい。そこをですね、ちょっとどうしたらいいのかなっていうすいません。

佐野和哉: うん。うん。はい。はい。はい。

高橋英信: 細かく言えなくて。

佐野和哉: いやいや、全然なんか、ま、最初のあのゲリラインタビューの話もそうなんだけど、あの目的を最初に持った方がいいよね、きっと。だからなんかリサーチするにしてもこれは何を目的としてリサーチするのだということを意識してやった方がいいかなという気が

高橋英信: うん。

佐野和哉: してて例えばうんと今1番知りたいのはその自分たちが今ターゲットとしたい人たちその20代30代ぐらいでグループで旅行してるような女子たちがうんと

高橋英信: はい。

佐野和哉: どういうどういうことを考えていてどういう旅行のを思考したいなと思っていて、で、そこに別府を選んでくれる可能性があるのかとか、ま、その、ま、そういうところかなと思うので、なんかそういうことに関連することが知りたいなみたいなのが、ま、最初にざっくりあるわけじゃないですか。

00:47:15

佐野和哉: で、そこに対してうんと参考になりそうな情報を集めようみたいなことになるかなと思っていて、で、例えば統計情報で言っても、ま、

高橋英信: はい。はい。

佐野和哉: そのざっくりベプの全強、あの、外を知るとかいう意味では広い意味での広い統計情報とかからやり始めるのは意味あるし、ま、俺もそれからやってたけども、うんと、ま、もうちょっとなんだろう。うんとなんだろうな。例えばうんと、ま、これが正しいかどうかわかんないけど、例えばもしも掘り下げるとしたらうんと20代福岡に住んでいる20代30代ぐらいの女子たち女性たちはなんかどういう消費行動をしているのかみたいなデータとかがあるのかどうかとかなんかあのそう、ま、福岡に限らなくても、ま、全国的にそういう20代30代の人たちは女子たちはどういう旅行に関してどういう行動を取るかみたいなことだったりとかうんとなんだろう。あとはなんか世代別の平均年収世代性別の平均年収とかみたいなとかはなんか剣のデータとかであるかもしれないよとかなんかそういうことを調べていくとかはあるかもしれない。そういう定量的なデータだとそういうのがあるかも。

高橋英信: うん。うん。

00:48:35

佐野和哉: で、訂正的なデータだとうんと、ま、ゲーインタビューみたいなもやり方もあるしうんと、ま、普通にそういうのに近い感じの友達ないし、友達

高橋英信: はい。

佐野和哉: の友達ぐらいでそういう人がいないかを色々探ってみるとかもあるかもしれないしとか。

高橋英信: うん。

安部和音: うん。

高橋英信: ふ。

安部和音: あの、まず結構仮説が出てこないっていうのを悩んでました。

佐野和哉: なるほどね。仮説。

高橋英信: そうですね。

佐野和哉: それはでもやっぱ改造度が低いというか、ま、全然それはなんかあの伝の解像度が低いとかっていうことではなくて、単純にあんまり全体なんかそのなんだ20代30代女子その別に旅行に行くような20代30代女子の具体像がよく見えてないっていうところなんだろうという気がするのでそれは俺も多分あんまりまだちゃんと見えてないから多分まそれでゲジインタビューとかして見えてきたところもあるかもしれないし、まだ見えてきてないところがあるのかもしれないけど、インタビューしてみてもそれまだあんまりまだわかんないなっていう感じ。

高橋英信: そうですね。

佐野和哉: うん。

高橋英信: あの、実際その、ま、ターゲットとして、あの、インタビューする前に思ってたのが、ま、やっぱりその博多の230代の感情グループっていうところだっ

00:49:42

佐野和哉: うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。うん。

高橋英信: たんですよ。

佐野和哉: うん。うん。

高橋英信: っていう人にあのインタビューできなかったのも、ま、そうですね、原インタビューだとちょっとどうなんだろうっていうそこを確証にできなかったなっていう

佐野和哉: うん。うん。うん。うん。うん。はいはいはい。ま、ゲリラインタビューは全然そこまで至らなくていいと思うんだけど。

高橋英信: はい。

佐野和哉: そうね。うーん。そうだなあ。まあ、なんだろうな。普通にその自分の感覚としてその改造度を高めていくぐらいの話で言うとうーん。ま、もし俺がやるならなんかそういうあのそういう感覚に近そうな人に当たっていくとかはあるかなという気がする。

高橋英信: うん。

安部和音: H

高橋英信: うん。うん。うん。うん。うん。うん。

佐野和哉: うーん。

高橋英信: あ、なるほど。

佐野和哉: ま、それは人によって色々やり方あると思うんだけど、ま、俺だったらうんと、その、そう、もし福岡にそういう友達がいたらそういう友達に聞いてみるとか、あのなんだろう、別の人でもし仲のいい人がいるんだったらなんかそういう人になんか別府に来てる20代

00:51:02

佐野和哉: 30代の上司みたいな人たってどんな感じみたいな風に聞いてみるとかもあるかもしれないしとか厳しいんだ。

高橋英信: うん。ふ。

安部和音: そこは厳しいよね、多分。えっと、ま、ちょっと、ちょっと外出れてないっていうのは、ま、あの、あるんですよ。

佐野和哉: うん。うん。

安部和音: 大分来てから。

佐野和哉: はい。はい。はい。

安部和音: あの、割と出会い、出会いがないっていうのはがないってのはあるんですけど、ま、多分なんかそういう糸口があって、俺も結構そういう

佐野和哉: あ、そうなんだ。うん。うん。うん。

安部和音: なんかこう裸を守ってる福岡の女子ってこんな人だとか北海道に行った時にやっぱ北海道ってこういう属性の人が遊びきてたり、こういう外国人、北海道

佐野和哉: うん。うん。うん。うん。うん。

安部和音: のこの町に来る外国人はこういう人だっただけのはあるんですけど、それって多分結構こういう関係から生まれてきたことで、で、それがない人

佐野和哉: うん。うん。うん。うん。

安部和音: はええっと、なんかそう想像して想像し、なんかこう妄想してこう想像していくみたいなのか、ま、ちゃんとマーケットリサーチをこうしたりとか

00:51:49

佐野和哉: うん。

安部和音: YouTube でこうあの博多にいる人とかをこう観察するとか色々あると思うんですけど、なんか結構そういう人が簡単なタスクみたいなものってありますか？次

佐野和哉: ああ。なんか、ま、その辺結構人によってその最初の仮説からどう掘り下ろかみたいなのって結構人によってやり方違ってくるかなという感じがしてて、なんか得意なスタイルが結構あるんだけどなんかもうそれこそそののなんだ該当インタビューとかガンガンできちゃ

う人はもうそういうのしちゃううんとなんだろ

安部和音: うん。

佐野和哉: もうディスクリサーチ得意な人たちは徹底的に調べてなんかなんとなく自分の中で改造を高めていったりとかあのなんだろうインスタであの別に旅行

安部和音: うん。うん。

佐野和哉: してる女子を片っ端しから見るみたいなのとかをやる人とかもいるかもしれないしとかうんとなんだろ。まあ普通にあのそうね、俺だったらその友達にそういう人に当たっていきみたいなのとかはあるしみたいない感じだけど、ま、そういうのうん

安部和音: うん。なんか1人デスリサーチですね。ああ、なるほど。うん。

佐野和哉: 。ま、そういうのなければもう普通にいいんじゃない? インタビューで話聞くで。うん。で、インタビューで話聞けば俺も結局今あんまりアプローチの手段がないから、ま、インタビューしてみてかなと思ってはいるけど、けど、ま、インタビューでさっき書いたような感じの内容が聞ければなんか改造度は結構上がりそうな気がするかなと思うので、経験だから、まあ、一旦それでいい

00:53:25

安部和音: うん。うん。

佐野和哉: んではないかという気はする。

安部和音: うん。ふん。ふん。と割とそうやって、あの、仕事を見つけることが結構苦手っていうか、ま、ポジションを取るのが苦手というかなので、なんかこうそれは毎回

佐野和哉: うん。うん。うん。ふん。ふん。

安部和音: こうどうしていこうかなって思ってますね。

佐野和哉: ふん。ふん。ふん。難しいね。

安部和音: 宿題がいいかもしれないって言ってました。ちょっとかひ、えっと、ヒはあの宿題タイプでやりたいってことは言、ま、あの、そう、仕事を見つけるのが上手になるためっていうのも、ま、今回、あの、僕、あの、でしてる理由として

佐野和哉: 宿題。うん。うん。はい。はい。はい。

高橋英信: よし。うん。うん。うん。

佐野和哉: いいじゃん。

安部和音: で、俺、俺があ、考えてやんだよって言ったら、あの、ワフラチックに結も

佐野和哉: うん。

00:54:18

佐野和哉: うん。え、じゃあひで君の得意なことは何ですか? うん。

高橋英信: 得意なことですか? あ、でも勝手に考えるっていうのが、ま、量としては多いんですけど、それが、ま、風とかに話すとちょっと精度

佐野和哉: うん。うん。うん。

高橋英信: 低くないみたいな、方向違くないみたいな風に言われちゃうっていうことがあって、ちょっとそうですね、得意なことが、あ、それ、それできるっすね

佐野和哉: はい。はい。はい。うん。うん。うん。うん。なんかすんげえ可愛い女の子のインスタを見るのが好きとかなんかそれできる。

安部和音: うん。

高橋英信: 。インスタで調べるできるですね。それぞれもはい。

安部和音: うん。

佐野和哉: そう。それだったらなんかその別なのはなんかハッシュタグ別なのかわかんないけどなんか別府なのかなんかなんかのまあ多分なんかの糸口はあると思うんだけどどっかのその旅館のタグ付けしてる人見るとかそのそこで投稿してる人見るとかみたいなのあると思うんだけどなんかそういうのとかでなんか

高橋英信: はい。うん。うん。うん。うん。うん。なるほど。

00:55:10

佐野和哉: そういう別にグループで来てそうな女子の改造度を高めるみたいなのはなんかあるかもしれないよね。で、その美的感覚みたいなものを自分の中にある程度入れちゃえばなんかなんだろう、あのクリエイティブに対する改造度みたいなことは結構上がる気がしてて

安部和音: なるほど。うん。うん。

佐野和哉: なんかあのいやでも俺がめちゃくちゃインスタで見た20代別府に来てる20代女子はこれをいいと思うかわからんみたいな風に言えるかもしれない

高橋英信: うん。うん。うん。うん。

佐野和哉: しなんか俺が見てきたインスタで見てきた20代30代のあの別府に来てる女子は多分こういうのが好きみたいなことが言えるかもしれないとかうん。

高橋英信: それいいかもしれないですね。そのうちなるベップ女子みたいな作っちゃうの。

佐野和哉: うん。うん。うん。

安部和音: うん。ふん。ふん。

佐野和哉: なんかこれもめっちゃ前のあの広告代理店話だけど、あのな、なんだっけ？10年ぐらい前に電通のなんかスタークリエイターみたいな人だった人がなんか

安部和音: はい。

高橋英信: うん。

佐野和哉: ハーと喧嘩して炎上していなくなっちゃったんだけどなんかその人はあの西のカナのミュージックビデオ見るために毎日なんか女子のあの高校生女子のインスタの投稿を1時間見るみたいなのを毎日やって苦行のようになんか自分の中に女子高製造像を作り上げたてから作ったって話をしてて、なんかプロってそういうとこなんだなって思ったりした。そうで、結構そういうの大事だと思う。うん。うん。うん。うん。うん。そうね。うん。

00:56:29

安部和音: なるほどなるほどなるほど。あとあれすね、リサーチのけど結構リテラシが上がりそうですね。

高橋英信: ふ。

安部和音: ハッシュタグ別だったら多分純粋にインフルエンサが出てくるからこからこういかにリアルを掘っていくかみたいな方とけか。あ、いい、いいじゃん。それ次じゃあ発表してくれ。名前までつけてください。来週じゃあ。うん。うん。うん。すご、すごいいい。あ、いいですね。ありがとうございます。なるほど。

高橋英信: そうです。うん。うん。ありがとうございます。

佐野和哉: うちなるベッペ女子をね、別に旅行する女子のイメージをね、ありがとうございます。

安部和音: 分かりました。あ、じゃあ大丈夫ですかね？ 本、あ、あと本ありがとうございます。

佐野和哉: おいす。

安部和音: なんかま、調べてみようかな。デザインリサーチってのが結構俺分かってないんですよね。なんかあ、うん。

佐野和哉: 俺もわかんない。俺もわかんないんだけど、なんか、ま、早、流行りっぽい感じは結構あるかな。で、なんかデザインリサーチとはなんぞみたいな話もまだそんなになんか定義されてないから多分。だから、ま、なんかざっくりそのデザイン思考的なやり方でリサーチをしたらこうなるみたいな感じのことかなと思っていいと思う。

00:57:36

安部和音: うん。うん。うん。うん。うん。

Louju: うん。

安部和音: うん。

佐野和哉: でも内容もね、多分その1番最後にした This is サービス design thinkキングとそんなに変わらないかな。

安部和音: うーん。

佐野和哉: だ、これをもうちょっと読みやすくした感じぐらいな感じだと思う。

安部和音: うん。

Louju: うん。

安部和音: うん。なるほど。

佐野和哉: もうちょっと読みやすくして、で、こっちが最近出た本だから、あの、ま、もうちょっとモンかなって感じ。

安部和音: なるほど。うん。うん。

佐野和哉: この1番最後のやつは10年ぐらい前に出てる本だから、ちょっとさ、こっちの方がちょっと最近かなって感じ。

安部和音: はい。うん。うん。うん。うん。デザインリサーチって言うてる人本当に何やっ

てるかわからないけど、けどなんかみんなすごい意義がありそうなんですよ。

高橋英信: と

佐野和哉: そうね。そうね。ま、デザインシンキングっぽく、デザイン思考っぽくやってますみたいな感じかなという気がする。

安部和音: うん。うん。

00:58:24

安部和音: うん。グラフィックデザインとは全く遠い話なんですよ。デザインリサーチって。

佐野和哉: そうね。まあ、そのデザイン思考自体がなんかなんだらう、あのデザインの領域を頑張って広げようとした人たちが作ったものだから、だからそのデザインの領域から

Louju: うん。

安部和音: ああ、そうなんですね。うーん。なるほどなるほど。あ、あ、そういうこと。そうですね。

佐野和哉: ちょっと広がってるものって感じ。1番最初はそのなんだデザイナーが考えてるようなやり方で色々物事を見てみようみたいなものがそのデザイン思考なの始まりなんだけどなんかでも最近

Louju: うん。

佐野和哉: なんかもうデザイン思考っていう産業になってるからなんかそれはそれでなんかもうちょっと違うもののっていう感じな気もする。

安部和音: うん。うん。うん。でもあのゆかりさんのアイデンティめちゃくちゃ好きで結構毎日ホームページ見てあのワークフローを全く同じように最近やろうであの事業作る時なんですよ。

佐野和哉: うん。うん。はい。はい。はい。はい。はい。はい。

安部和音: いやとアイデンティをずっと見てますね。

佐野和哉: はい。はい。

00:59:22

佐野和哉: はい。うん。

安部和音: あのフローをいや本当にいやいつかいつかしてもらいたいですね。

Louju: うん。

佐野和哉: 怒りさんに抗義してもらったらいんじゃない？でもデザインリサーチとか俺が怒りさんに吹き込んでるからわかんない。

安部和音: あ、そうなんすね。

佐野和哉: 怒りさんはゆかりさんで調べてると思うけどもちろん。

安部和音: あ、分かりました。じゃあ佐野さんのお勧めする本をまず読みます。うーん。うん。

佐野和哉: そう。だからひりさんもそう、ひさんもあんまりデザインリサーチもわかん、なんかあんまり俺もよく知らんって言うと思う多分けど、まあそんな感じ。

安部和音: なるほど。なるほど。あ、分かりました。すいません。ありがとうございました。読めます。

佐野和哉: ありがとうございます。

安部和音: 他ですか、皆さん

Louju: かあ、火であのさ、これ時間あればでいいんだけど、あのホテルの外観パースあるじゃん。

高橋英信: はい。はい。

Louju: 俺の夜バージョンをちょっと作って欲しいなと思って面してあれや。うん。それ夜パースはさ、もう照明とか実装されてんだっけ?照明はまだ置かれてないんだっけ?あ、うん。そう。

高橋英信: あ、オッケーです。オケーす。ヒルバージョンもあのちょっと違うソフトで作り直したやつがあるからまとめて送るね。

01:00:19

高橋英信: うん。置かれてないけど置くこともできるから置いた状態の方がやりやすい感じ。

安部和音: はい。

Louju: なんかある程度このここ入り口の連起きそうなところとあとはなんて言うの?この食材のところあれちょ正面ある状態で見れたらでこれかさんこれだけじゃなくて

高橋英信: うん。うん。うん。

安部和音: うん。

Louju: 多分これ入り口外観全体ま相対で考えていった方がいいなと思っててそうなった時にあのまサインもそうだけどまああの外外にさ、ア

安部和音: うん。うん。あ、そう思うわ。うん。うん。うん。

Louju: むって感じを置くみたいなさ、アイデアあったじゃん。

安部和音: うん。うん。

Louju: あれでその建築に後付けでやるみたいな感じだったけど、それはまだな、可能なの。

安部和音: 行けるとは思う。あの、苦しめるけど建築会社を。

Louju: うん。なるほど。

安部和音: でもえっとで全然できるんだが、ここにバーができることを考えると、ああ、佐野さんもこれ知ってたっけ?え、バーがえっと、あ、あの、自分ライトしてもらって、えっと、ここにあります。

Louju: バーができる。

高橋英信: うん。

01:01:30

Louju: ああ、そういうこと。バーがあるのか。

高橋英信: ある、あるんでね。そのありなしのバージョンもうん。

Louju: そうだわ。

佐野和哉: バーどこにできんの

Louju: そうだわ。

佐野和哉: どういうこと？2階建て。

安部和音: いや、えっと、もう、あ、2階建てのバーがここだけ売ってくれなかったんですよ。そうですね。ここにちょうどバーがあるので。はい。あ、そうです。そうです。そうです。そうです。バーです。はい。なので、ま、これは黒。

佐野和哉: ああ、手前側にあるってことね。はいはいはい。あれだよ。なんか Google マップで手前にあった。はあ、なるほどね。ここのこの空き地がバーっていうか建物ってことね。はいはいはい。なるほどね。

Louju: ふんふん。

安部和音: 黒なんで、ま、これは考慮した方がいいかな。

Louju: うん。なんか火でこれパースにさ、あの黒いあの何でもいいからさ、ちょっと置いて欲しいわ。

高橋英信: あ、もう、もう作ってはある。一応外した状態でこれ出してるだけだから。

Louju: あ、そうなん。ふん、ふん、ふん。あ、うん。うん。うん。オッケー。うん。うん。うん。

高橋英信: うん。そのバージョンも送ります。

安部和音: ま、ただダサくなる気はするな。かっこよくまとめ上げられるといいけど。うん。そうっすね。あの、定例じゃなくても全然に言、ヒとちょっと電話しながらとかでちょっとした作業でできるからこれちょっと早めに進めた方がいいかもしれない

高橋英信: うん。うん。

安部和音: 。CG で思考錯誤した方がいいかもしれない。はい。

高橋英信: うん。うん。

安部和音: じゃあ大丈夫そうですか？はい。あ、お疲れ様でした。ありがとうございました。また来週お願いします。

01:05:21 より後に文字起こしが終了しました

この編集可能な文字起こしはコンピュータが生成したものであり、誤りが含まれている可能性があります。作成後にテキストを変更することもできます。